

株式会社 ニッポー 島根工場

所在地：島根県仁多郡奥出雲町下横田750-1
 代表者：取締役工場長 内田 博隆
 創業：1984年7月（昭和59年）
 事業内容：製造業
 従業員数：85名（男性58名、女性27名）
 URL：https://www.nippo-co.com/



・サテライトオフィス開設で人材確保の幅が拡大 ・「飲みニケーション」で他部署との交流が促進

取組みのきっかけ・背景

- ①奥出雲の山間地域特有の問題として、新卒者の流出と、奥出雲の交通アクセスの悪さなど若者に敬遠されがちな地域的な問題がある。
- ②開発力、技術力また独自技術と先見性など大手企業と差別化が図られた優良企業であるが、その点についての発信力に弱さがある。
- ③従業員が増えてきたが、逆にコミュニケーションについては不足しがちになってきた。また埼玉本社との距離感もでてきている。
- ④今後定年退職者が年々出てくるが、退職後に再雇用して働いてもらう場合に、モチベーション維持も含めた改善が必要となる。
- ⑤受注案件が増えてきているが、人員不足と若い社員がまだ十分に育っていないため、作業が決まった人に集中し、時間外労働が多くなってきている。



取組みの内容

求職者の希望勤務地とのマッチングをより図るため、島根工場（奥出雲町）だけではなく、出雲市内にサテライトオフィスを開設し、求職者の希望により広く対応できるようにしました。

会社での世代間を越えたコミュニケーションをとるため、上期、下期それぞれの初めにくじ引きによる「飲みニケーショングループ」を編成し、「飲みニケーション」を開催しました。

これは、半期ごとに会社から経費が支給されます。

また、北海道への従業員旅行を開催し、利益増の配分を行ったことにより経営の見える化が図られました。

時間外労働の削減については、開発部門のマンパワー不足の改善と育成の両輪を改善しなければなりません。



浸透・定着への取組み

島根工場、出雲サテライト、埼玉本社との距離があり、その間でコミュニケーションを図る取組みとして、最近のSNSの流れにのり、社内ブログなどの取組みも考慮しました。

人事評価制度は、すでに優れた制度となっていますが、フィードバックを充実させることで次の目標を明確化し、より良い制度になるようにしました。

新卒者の対応として、エルダー・メンター制度の導入により新入社員のフォローを行いました。

①新人事制度の等級に相当するスキルを洗い出して、最低限必要なスキルを決める。

- ②新人のスキル習得・人材育成を計画し、計画的に行う仕組みづくりを行う。
 また今後は、定年再雇用者のモチベーション維持も含めた改善が必要となってきます。
- ③再雇用者も新人事考課制度による賞与を査定。
- ④特殊技能保持者の待遇見直し。

取組み効果・社員の变化

出雲市内にサテライトオフィスを置いたことで、出雲地区での雇用に関するイベント等に参加する機会を得ました。また求職者向けのガイドブックにも「出雲オフィス」として掲載できるようになり、商品開発課に限られますが、出雲市出身者が出雲オフィスに異動となり、通勤のロスもなく地元で働けるといふ満足度が上がりました。

これまで仕事から離れた他部署との交流の場は少なく、今回の飲みニケーショングループは他部署の人との組み合わせになるよう工夫したことから、普段話をしたことのない人とも交流できるようになり、仕事面でも良好なコミュニケーションが取れるなど良い効果も表れています。

また、人材確保の幅を広げるため、出雲地区に拠点を設けたり、若い社員にはセミナー参加を通して実力アップを進めています。

今後の課題・展望

出雲市内に拠点を置いたことにより、さらなる情報発信等により人材の確保に努め、出雲オフィスの規模拡大を図ると共に、オフィス環境・労働環境などの働きやすい職場環境の構築を目指します。働き方改革を進める一環として、労働生産性向上の推進、また社員一人ひとりの能力・スキルアップの向上および生産ラインの自動化の推進を図り、業務改善や時間外労働の削減を進めていこうと考えています。

さらに労働環境の改善として、テレワークなどの実施が出来る環境整備、有給休暇についても時間単位で取得できるよう社員が働きやすい環境を目指します。

また、お客様視点に立ち、製販一体となって製品の高付加価値化を進め、それによる利益に基づき社員の待遇改善を実現していきたいと思っております。

社員の声



当社は「おくいずも子育て応援事業所」に認定されており、子育てにおいても積極的な支援を戴けます。私は男性ですが、今回周りの協力もあり育児休業を取る予定です。以前より多能工化が推進されており、このような面でも安心して休暇を取ることが出来ます。

品質保証課班長：福本 孝



私は出雲市の出身で、Uターンを考えている時に「出雲オフィス」への勤務が可能であるとの説明を受け、仕事の内容も関心がありましたので、ここで働くことを決めました。自宅から近く通勤も楽です。また少人数なので集中して仕事出来る環境にあります。

商品開発課主任：土江 隆文



自職場では小集団活動として、問題解決に向けた意見交換を行っています。そういう場から職場改善に向けた内容も発信していきたいと思っております。また飲みニケーションの場では、いろいろなお話を聞くことができ、自分を見つめ直し仕事にも参考になる良い場となっています。

生産課：石原 未央

派遣専門家のコメント

奥出雲の地にあり、若者の流出が顕著な地域で、若者が定着し、いきいきと仕事ができる環境ができるのか不安でしたが、サテライトオフィスの開設とコミュニケーション施策の実施により、地元出身者だけでなく都市部からの就職者があつたことは、取組みを継続してこられた結果だと思います。

中山間地の企業のお手本となる企業として更なる取組みに期待しています。

特定社会保険労務士 木村 雄治

